

Easter Village

イースタービレッジだより 第64号



みんなとの思い出のページ

2019年1月に、毎年恒例のエクスポージャー(体験学習)が札幌教区の主催で行われました。参加者の感想文をいくつか紹介したいと思います。

フィリピンで学んだこと

高校3年 江口 璃音

今回のイースタービレッジでの生活は、いままでの生活にはないくらい、とても濃い時間でした。

イースタービレッジに着く前、私はとても不安でした。食べ物やお風呂などの水まわり、環境の違いはもちろんですが、一番不安だったのは言語の違いでした。英語が苦手な私は、英語でコミュニケーションが取れるのかとても不安でした。実際、イースタービレッジに着いてから、英語がわからなくて困ったこともありましたが、だんだんと英語に慣れてきて、イースタービレッジのみんなと、楽しくコミュニケーションを取ることができるようになり、2日目が終わる頃には、不安はほとんどなくなっていました。流暢な英語が話せる訳ではありませんが、身振り手振りをしながら伝えて話すことはとても楽しく、この経験は将来の自分にきつとどこかで必ず役立つと感じました。

イースタービレッジに来て数日経った日に、エクスポージャーのみんながイースタービレッジを題材にした映像をみました。その時に、ここは何かしらの事情で家族と暮らせなくなった人達が来る場所ということに改めて聞かされ、毎日なんの問題もなく家族と暮らせていることに感謝しなければいけないと改めて感じたのと同時に、イースタービレッジにいる子達から、さまざまな理由で家族と暮らせないという事情を抱えているということには全く感じないと気付きました。イースタービレッジにいる子はみんな明るい子達ばかりで、事情があるようには全く見えません。もともと人間性もあると思います。が、「児童養護施設」と聞くと心を閉ざしてしまう子が多いというイメージがありました。イースタービレッジはそのイメージを180度変えてくれました。イースタービレッジがつくられたとき、地獄のような顔をして来る子達が天国と思えるような場所にしたいという思いがあったという話を聞いて私は納得しました。このような施設が世界中にどんどん増えてほしいと思いました。また、笑顔をつくれるような活動を私もこれからしていきたいと思いました。(後略)

エクスポージャー感想文
高校2年 安達クリスマス寿夫

今回のエクスポージャーへの参加まで運んでいただいた皆さんには本当に感謝しています。そして、最後まで無事に帰国まで見守ってくれた鳥居さん、祐川神父様ありがとうございます。

今回のエクスポージャーで僕は一生の思い出を作ることができました。英語がまったくできない僕にとつて初めての海外は不安でいっぱいでした。フィリピンへ行くまでの長旅でも苦労しましたが、フィリピンについてから全く聞きなれていない言語に囲まれてようやく海外にきた実感を感じました。

Easter Villageに到着すると目を輝かせた子供たちが迎え入れてくれました。僕たち日本人のために用意してくれた食事や歌、ゲームなどで歓迎してくれました。

(中略)

Easter Villageで過ごして3日目から僕の心の中に変化が現れました。

3日目はみんなでプールへ行きました。いつもよりもたくさんの方が集まりとても賑わっていました。僕は何気なくしばらくみんなの様子を眺めていたら自然と涙目になってしまい、なぜかはすぐにわかりました。

出会ってまだ3日ではありますが、Easter Villageの子供たちから愛情をもらい僕の心の中がとても温かくなっていたからです。それに気づいてから僕は彼らのことを家族と同じように思うようになりました。

僕はエースさんから聞きました。「この人たちは幸せを与え合う」と。帰国後もEaster Villageの子供たちのように清らかな心をもって生きていこうと思いました。そして何よりも英語をもっと勉強しようと思いました。



こちらではゲームも罰ゲームもシンプルでみんなで楽しめるものばかりです



最初は緊張も見られましたが、3日過ぎたあたりからみんなあつという間に仲良くなりました

子どもたちからの手紙

子どもたちからお兄さんとお姉さんに書いた手紙を、日本語訳でご紹介します。

リオお姉さん、イースタービレッジに来てくれてありがとう。私たち皆もエクスポージャーの人たちが来てくれたことに感謝しています。モモコお姉さん、また、イースタービレッジに戻ってきてね。タマミお姉さん、イースタービレッジに戻ってきてね。エクスポージャーで来てくれた人たち、みんなに感謝します。ありがとう。

マージェイラ

まず最初に、みんながイースタービレッジに来てくれて本当嬉しかったし、ありがとうを言いたいと思います。みんなのことが大好き、今とても寂しいわ。私たちみんなと色々な遊びもしてくれてありがとう。特に姉のことが、恋しく思ってる。みんな、日本に帰りたいわ。みんな、日本に帰りたいわ。だから、来年、絶対また戻ってきてね。裕也、みんな、ここでの思い出、決して忘れないでね。

インダイ

エクスポージャーでここイースタービレッジを訪ねてくれた人たちに感謝します。短い期間でしたが、みんなと出会えて嬉しかったです。おいしいカレーを作ってくれてありがとう。また来月戻ってきてもらいたいな。

ムロン

エクスポージャーの人たちがここのイ
スタービレッジに来てくれて本当、私う
れしかった。それに日本語を学ぶことも
できたことも嬉しかったわ。発音が難し
くて舌が良く回らなかったけどね。

嬉しかったことはまだあるわ。それは
日本から来た美男美女と出会うことが
できたこと。そして、エクスポージャーの
人たちと仲良くなったことが嬉しかつ
たな。みんなとお友達になれて嬉しかつ
たし、ポメロという果物をビサヤ語で
bongonというんだけど、日本
人は上手に発音できなくて、別の意味
になっちゃうの。可笑しくてたまらなかつ
たわ。おかげで思いっきり笑ったわ。

それと、みんな一日のスケジュールで
疲れていたにもかかわらず、夜も私たち
と一緒にいろいろと遊んでくれた。本当
にみんなには感謝の気持ちでいっぱい
です。みんなのことをいとおしく思ってい
ます。また、必ずイースタービレッジに
戻ってきてね。

ジェニス



エライのプールにて



ヤングココナッツジュースはまさに南国の味です



裏庭にみんなでマングスチンの苗を植えました



お別れの朝に



子どもたちの洗礼式にも立ち会いました

ご寄付いただいた方々
心より御礼申し上げます。

田中道子 聖園こども園のみなさま
本坊芳子 大塚美和子 建部陽子
渋谷繁男 石川雄治 松岡健一・博子
カトリック北26条教会 渡辺慶子
カトリック山鼻教会 鈴木忠浩・みち子
三好力 南嘉興子 真下廣子
西村尚子 井部守孝 大竹紀子
聖心会札幌修道院 高橋博治 原祥子
トラピスチヌ修道院 永田淑子
中村吾郎 佐山淑子 渡辺慶子
カトリック月寒教会・ケーキ部
カトリック元町教会・今田玄五神父
灯台の聖母トラピスト修道院
窄口國博 宮田敏夫・ゆかり
聖ドミニコ学院幼稚園・森本幸子
大森アヤ子 丹羽裕美子
カトリック聖園こどもの家
末吉偕子 高橋博子 千葉史郎
奏・茜 山田順一 安藤佐智
長谷川敬 山本悟郎・蒼子
殉教者ゲオルギオのフランシスコ修道会
武隈めぐみ 永川富雄 渡辺幸治
株式会社リモウ 齊藤隆浩
函館白百合学園幼稚園
石川雄治 堀田敏弘 阿部秀子
カトリック函館宮前町教会
浜田充啓 山本明美 石岡みどり
カトリック倶知安教会
油井博子 扇谷良廣 水口透
聖心の布教姉妹会本部 高島正人
聖ベネディクト女子修道院
横田三三子 蒲地雪憲 及川泰正
山元尚子 秋田憲子 祐川眞一
谷佐喜子 西川哲彌 佐藤克洋
鳴海聖園天使園 カトリック円山教会広
島天使幼稚園 早瀬慶四郎
カトリック円山教会・イースタービレッジ
ミランダオを支える会
その他匿名の方々

(敬称略・順不同)

2018年11月9日～2019年2月15日まで

EVの昨日今日

ダバオ遠足

2018年12月の始めにみんな
でダバオに遠足に行きました。

ダバオはイースタービレッジから車
で約2時間半の距離にあり、フィリピン
ではマニラ、セブに次ぐ第3の都市
とされています。

子どもたちにとってダバオは、なか
なに行くことのできない都会の街とい
う印象でしょうか。前日には興奮し
すぎて眠れなかった子もいたようです。

早朝の6時前に出発して、ビレッジ
に帰ってきたのは夜の11時過ぎ。目
一杯ダバオを満喫してきました。



ここが有名なダバオのピープルズ・パーク



子どもたちに人気のクロコダイルパーク。様々な生き物と触れ合えるアミューズメントパークです



ここはクリスマス・マンションという一般公開されている豪邸です。たくさんのイルミネーションで飾られています

キャロリング

フィリピンのクリスマスシーズンには
キャロリング(carolling)とい
う、日本で言えば七夕のような風習が
あります。家々を回り歌を披露して、お
小遣いを稼ぐのです。

今年は日本から寄付でいただいたリ
コーダーで「きよしこの夜」を演奏しま
した。ソプラノとアルトの2重奏はなか
なかの出来栄で、子供たちにとっても
楽器と触れ合ういいきっかけとなりま
した。

また、キャロリングにビレッジの子ど
もたちを是非にと、自宅やお店に招待
してくださる方々もいて、寄付とは別に
食事を振舞ってくれたりもしました。



みんなたくさん練習しました



キダバワン市長の奥さんが経営するレストラン
30人以上のビレッジの子どもたちを招待してくれました



近くの児童養護施設でも演奏しました



姉妹のように育ったビビとベルナ



思いっきり踊りました

クリスマスパーティー
イースタービレッジでのクリスマスパーティーは12月22日に行われました。
グループに分かれて歌やダンスのプレゼンテーションをしたり、恒例のプレゼント交換、そしてご馳走やクリスマスケーキをみんなで楽しみました。



子供に大人気のジョリピーのチキンとスパゲッティー

分かち合いの文化
イースタービレッジには地元の方達もよく訪れます。彼らは必要な生活物資を届けてくれたり、自分たちの誕生日を施設の子どもたちとお祝いするために、ケーキやご馳走を持ってきてくれたりします。
12月にはガルボファミリーとクイニー・フラウタさんが、それぞれ誕生日のお祝いをビレッジでしてくれました。ドクター・マリアさんのグループはクリスマスギフトを子どもたちに届けてくれました。
子どもたちもお返しにと、歌やダンスを披露してみなさんをもてなしました。



みんなで歌でお返しです



医者グループがクリスマスギフトを届けてくれました

誕生日おめでとう

今回は11月から2月までに誕生日を迎えた子たちを紹介します。

まず11月はティモティーが11歳になりました。誕生日の日には離れて暮らすお兄さんとお姉さんがビレッジを訪ねてくれました。24歳になったセサルは、大学卒業後にビレッジでスタッフとして働いています。レネは21歳になり、ワーキング・スチューデントとして高校に通いながらビレッジの仕事を手伝っています。

12月はネリサが16歳に、シャーマインが10歳になりました。シャーマインは12月に緊急避難的にビレッジで受け入れた子です。海外で働くお母さんが迎えに来るまでの短い間でしたが、ビレッジで生活を共にしました。ジョセフは24日のクリスマススイブに24歳になりました。彼は現在ダバオのホテルでOJT(職業訓練)の最中で、大学卒業も間近です。

1月はジェニスが14歳に、ジャンジャンが18歳、ジョーリンが22歳になりました。3人の誕生日はエクスポートジャーのプログラムでみんながエライのスイミングプールに遊びに行った時にお祝いました。

2月はマイマイが19歳に、エリサとジェマールが18歳になりました。ジェマールは3月で小学校を卒業できる見込みで、それからは現在EVで場所を提供しているALS(代替教育制度)の授業を受けながら飛び級を目指していくこととなります。



エクスポートジャーのみんなも
3人の誕生日を祝福してくれました



シャーマインとネリサ



ティモティのお兄さんとお姉さん
いつかまた一緒に暮らせる日を信じて



3月の誕生日パーティー
左からマイマイ、ジェマール、エリサ



ジョセフの誕生日はキャロリングの後でお祝いしました
ホストファミリーがご馳走を振る舞ってくれました



大切にに使わせていただきます

日本からの贈り物

昨年11月に日本の聖心の姉妹会から寄付と一緒にキャンディーなどの日本のお菓子が、また、道内の匿名の有志の方たちから子供用のカバンや靴などが届けられました。

1月には函館市にあるトラピスチヌ修道院からイースタービレッジの子どもたち宛にクッキーが届きました。子どもたちにとって、遠く海を渡った日本から届く贈り物は、いつも自分たちを気にかけてくれる人がいるというメッセージになります。いつも祈りと支援をくださる皆様に心から感謝申し上げます。



トラピスチヌ修道院のクッキー
とても美味しかったです



日本のお菓子はみんな大好きです



マージェイラは新しいカバンで
学校に通うようになりました

ニュースレターについての お知らせ

これまでフィリピン、イースタービレッジから直接支援者の皆様に郵送させていただいていた「イースタービレッジだより」ですが、フィリピン国内における郵便切手の値上がり等によって、郵送費は上昇傾向にありました。

そこでコストを削減するための方法を模索していたところ、日本のネット印刷会社を使えば大幅に印刷、郵送のコストを削減することが可能だとわかりました。そのため今号から「イースタービレッジ・ミンダナオを支える会」の方々に協力をお願いし、今後は日本からの発送となることを、ここに報告させていただきます。

支援者の皆様方におかれましては、いつも変わらぬご支援をありがとうございます。今後とも子どもたちの幸せを第一に考える運営努力を続けて参りますので、ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

イースタービレッジ CDアルバム第2弾

フィリピンで歌われている曲や祈り、イースタービレッジオリジナルソング、また勝谷太治司教のオリジナル曲のイースタービレッジバージョンなど全14曲を収録。

施設のチャペルで録音された子どもたちのイノセントな歌声や、イースタービレッジの歌姫ビビの美しい歌声など、前作よりもさらにスケールアップした音楽が聴く者の心を揺さぶります。

追加出版のお知らせ

『イエスという人の物語』は

2014年クリスマスに出版されましたが、この度、第二版が出されることになりました。144章、日本語でも千ページを超える作品ですが、地道にファンを増やしてきました。

ラテンアメリカで話題を呼んだラジオドラマに基づくイエスの物語で、読者は知らず知らずのうちに、当時の普通の生活や習慣、社会状況を理解することになります。勝谷司教の推薦をいただいています。ご注文はCDと同じく月寒教会まで。

CDの受付・問い合わせ
カトリック月寒教会CDアルバム係り
TEL: (011) 851-2032
FAX: (011) 851-2044
E-mail: ako.martha@gmail.com
また、iTunesやグーグルミュージック、ラインミュージックでもオリジナルソングを配信中。各サイトで"eastervillage"で検索。





また会う日まで！

《支援のお願い》

フィリピン南部にあるイースタービレッジ・ミンダナオは善意ある日本の皆様に支えられています。貧困と紛争の犠牲者となっている声なき子供たちを私たちが支え、そして彼ら自身が自立し、貧困と紛争を取り除く平和の使者となるようにできるだけの援助をしたいと考えています。与える以上に受けるものの方が本当はもっと多いのです。援助をくださる方は下記事務局にご連絡くださいませ。

「イースタービレッジ・ミンダナオを支える会」支援者募集

■代表 勝谷 太治 ■事務局 西田 淳子 松川 厚明

住所

060-0031 札幌市中央区北1条6丁目10 カトリック札幌司教館内
「イースタービレッジ・ミンダナオを支える会」事務局

Tel 011-241-2785 Fax 011-221-3668

支援金： 年会費一口 ￥5,000(一口以上) 一般寄付

郵便振替口座： 02760-3-39473

口座名称： イースタービレッジ・ミンダナオを支える会

現地事務局： EASTER VILLAGE CHILDREN'S HOME

Address: Riverpark Subd., Kidapawan City, 9400 Cotabato, Philippines

Tel/Fax: 63-64-577-3118

Email: info@eastervillage.com

Website: http://eastervillage.com

特記

会員、並びに奨学生を支えてくださっているスポンサーの方々、一般のご寄付をくださった方々には継続してこのたよりを送らせていただきます。(年4回)

2019年3月

「イースタービレッジだより64号」

編集者：祐川真謙

編集責任者：祐川郁生

